



北陸農政局「消費者の部屋」

展示期間：令和4年12月1日（木）～12月26日（月）

展示テーマ：【知って防ごう！野生鳥獣被害】

https://www.maff.go.jp/hokuriku/safe/consumer/snnai_f.html



北陸農政局「消費者の部屋」

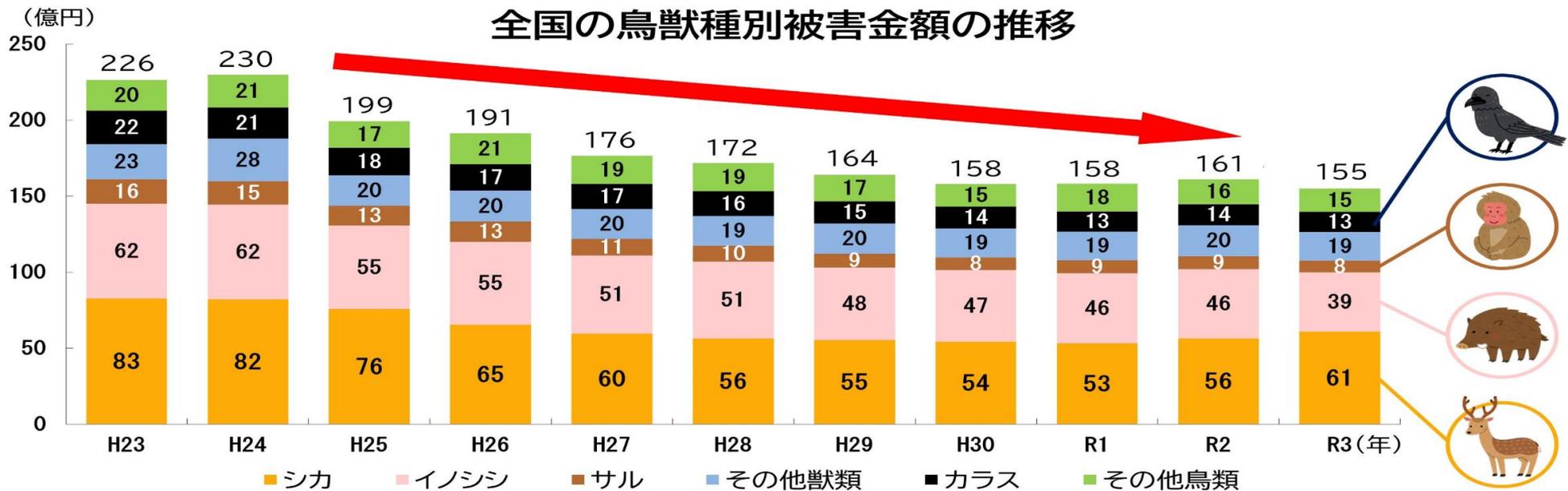


https://www.maff.go.jp/hokuriku/safe/consumer/snnai_f.html

【知って防ごう！野生鳥獣被害】①

全国の野生鳥獣による農作物被害の概況

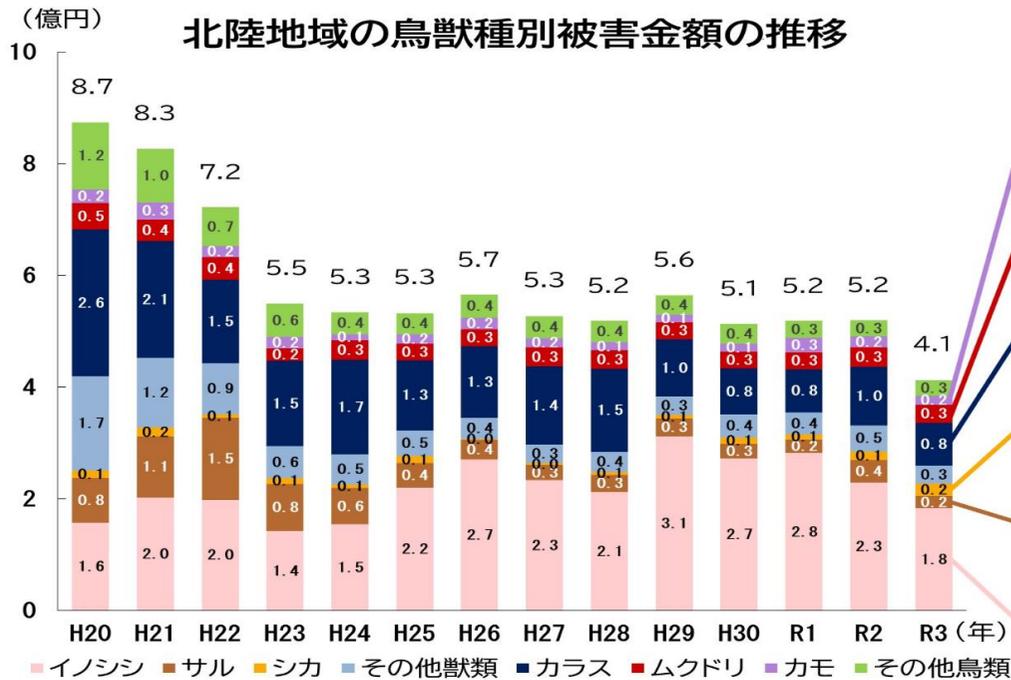
- 野生鳥獣による農作物被害額は、近年、160億円前後で推移しており、この10年では減少傾向にある。
- しかし、鳥獣被害は営農意欲の減退、耕作放棄地の増加等をもたらし、被害額として数字に現れる以上に農山漁村に深刻な影響を与えている。
- 近年はシカ・イノシシの被害が多く、2種で約6割を占める。
- 鳥獣被害が深刻化している要因としては、鳥獣の生息域の拡大、狩猟による捕獲圧の低下、耕作放棄地の増加等が考えられる。



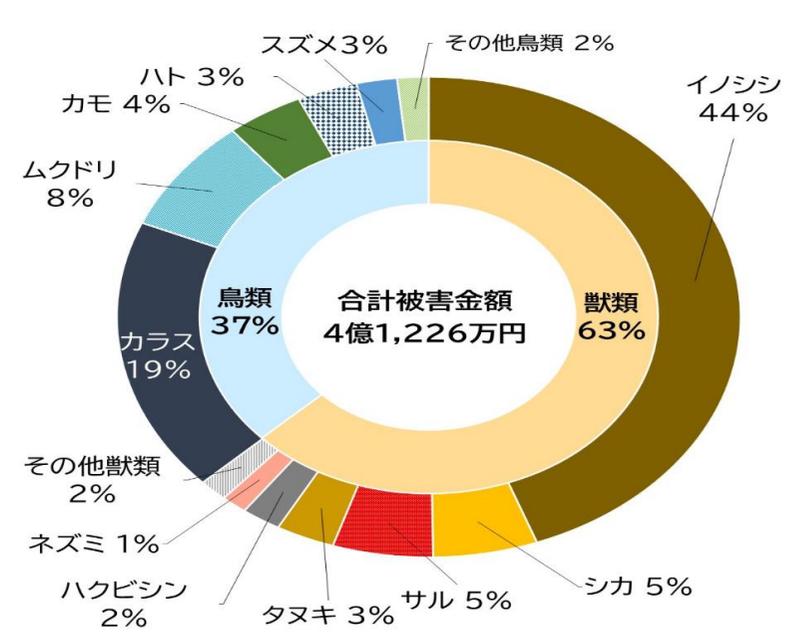
【知って防ごう！野生鳥獣被害】②

北陸地域の野生鳥獣による農作物被害の概況

- 北陸地域の野生鳥獣による農作物被害額は、平成23年度から約5億円程度で横ばいで推移していたが、令和3年度は約4.1億円となった。近年、新潟県でのイノシシによる被害金額の増加が顕著。
- 被害額のうち全体の約4割がイノシシであり、カラス、ムクドリ の順で多くこの3種で被害金額の7割以上を占めている。
- 全国で被害の多いシカは北陸地域では新潟県、福井県のみでの被害であり、全体の5%。



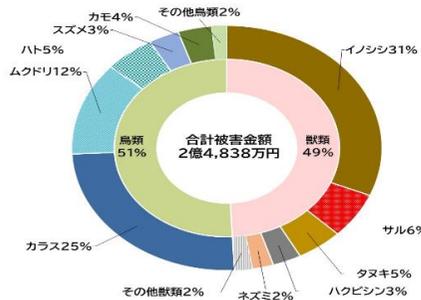
R3年度 北陸地域の鳥獣種別金額割合



【知って防ごう！野生鳥獣被害】③

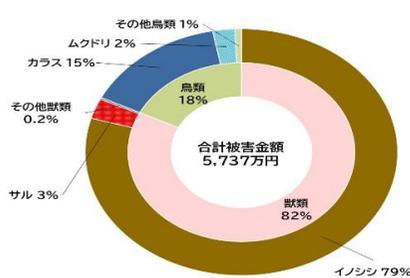
北陸農政局管内各県別の野生鳥獣による 令和3年度農作物被害状況の特徴

新潟県



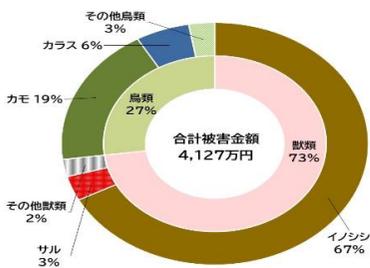
- 1位:イノシシ(7,782万円)
 2位:カラス(6,208万円)
 3位:ムクドリ(3,062万円)
 ・イノシシ被害が急増
 (過去5年平均比48%増)
 ・カラス、ムクドリ等鳥類の被害も多い

富山県



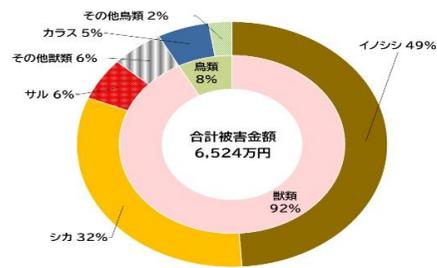
- 1位:イノシシ(4,557万円)
 2位:カラス(845万円)
 3位:サル(152万円)
 ・イノシシ被害が約8割
 ・特定地域で果樹等のカラス被害

石川県



- 1位:イノシシ(2,779万円)
 2位:カモ(771万円)
 3位:カラス(234万円)
 ・イノシシ被害が最も多い
 ・次いでカモ(主にレンコン被害)

福井県



- 1位:イノシシ(3,196万円)
 2位:シカ(2,101万円)
 3位:サル(364万円)
 ・獣類による被害が9割以上
 ・北陸では被害の少ないシカ被害が多い

令和4年度 鳥獣被害防止に向けた 集中捕獲キャンペーン



農ガール
 イラスト: 藤山のまひろ
 ©Nobuhito Midoriyama

人と野生動物のバランスを取り戻すために

- シカとイノシシはこの数十年で大きく数を増やし、農作物を食ったり、畑に降りてきて問題を起こしたりと、被害が増えています。
- そこで、令和2年度と令和3年度の狩猟期を「集中捕獲キャンペーン」と位置づけ、全国で集中的な捕獲を行った結果、皆様のご協力により、一昨年度は約135万頭、昨年度は約125万頭を捕獲することができました。
- 引き続き捕獲強化を進めるため、今年度も集中捕獲キャンペーンを実施します。ハンターや農林業者、自治体職員をはじめ、地域の皆様におかれては、鳥獣による被害を減らし、人と野生動物のバランスを取り戻すため、ご協力をお願いいたします。

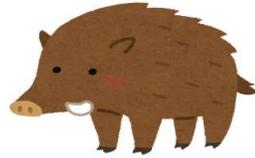
▶全国の中町村数1,741。うち鳥獣による農作物被害が認められる中町村数は約1,500。

▶農作物被害額161億円(令和3年)。1970年代と比べてシカは約3倍、イノシシは約2倍に増加が拡大。

【知って防ごう！野生鳥獣被害】④

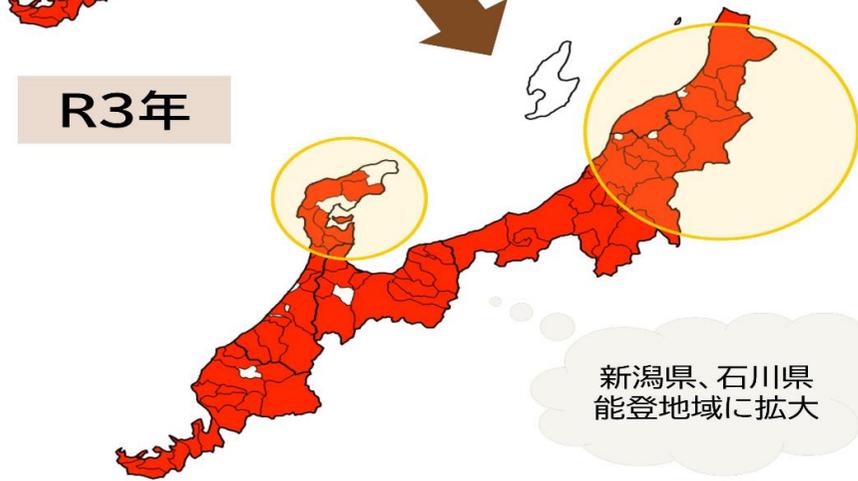
北陸地域の被害エリアの広がり 〈イノシシ〉

H23年



生息域が北上

R3年



新潟県、石川県
能登地域に拡大

※赤色部分は農作物被害が発生している地域

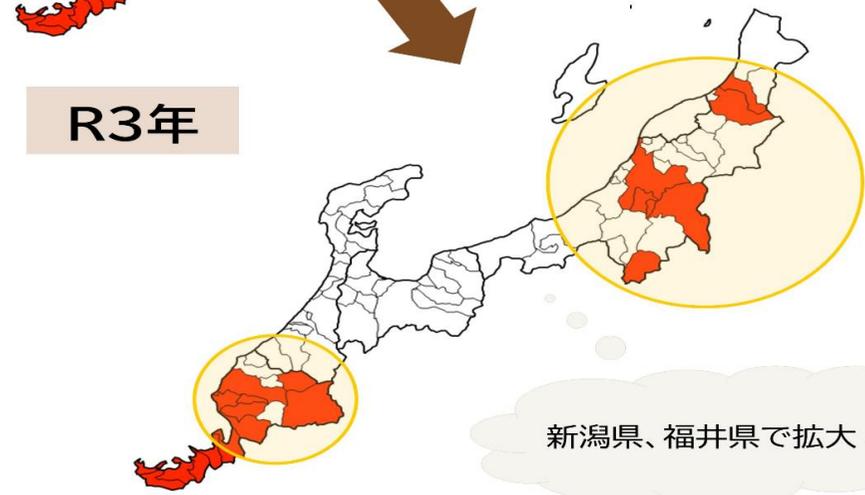
北陸地域の被害エリアの広がり 〈シカ〉

H23年



北陸地域でもシカの
被害が目立つように

R3年



新潟県、福井県で拡大

※赤色部分は農作物被害が発生している地域

【知って防ごう！野生鳥獣被害】⑤

鳥獣被害対策の3本柱

○鳥獣被害対策は、**個体群管理**、**侵入防止対策**、**生息環境管理**の3本柱が鉄則。

○この3つの活動をいかに徹底してできるかが、対策の効果を大きく左右。

◆ 第1の柱…個体群管理(捕獲)



檻・わなの設置



銃猟

農作物に被害を及ぼす個体(加害個体)を檻やわなで捕獲したり、銃による狩猟により、生息個体数を管理します。

◆ 第2の柱…侵入防止対策(柵の設置等による侵入防止)



侵入防止柵の設置



サルの追い払い
(パチンコ)

侵入防止柵の設置や集落ぐるみの追い払いにより、加害個体の侵入を防ぎます。

(追い払いには、パチンコ、花火、エアガン等を用います)

◆ 第3の柱…生息環境管理(放任果樹の伐採、刈払いによる餌場・隠れ場の撲滅)



緩衝帯整備



放任果樹の伐採

餌となるような放任果樹の除去や、緩衝帯を整備して隠れ場をなくすことで、加害個体が近寄りにくくします。



放任果樹等は加害個体への「無意識の餌付け」となっている可能性がある

捕獲わなの種類

◆ 箱わな

- ・罠の中に餌をまきイノシシを誘導し扉のロックが外れると扉が閉まります。
- ・頻繁に移動させると誘因効果が低くなります。

餌となる米ぬかなどを置きます



箱わな設置状況



捕獲状況

◆ 囲いわな

- ・群れごとに捕獲する罠です。
- ・捕獲後の処理はくくりわなに比べて安全ですが罠になれるまで時間がかかることがあります。



囲いわな設置状況



捕獲状況

◆ くくりわな

- ・ワイヤーで作った輪によって、イノシシやシカの脚をくくって捕まえる罠です。
- ・設置場所の選定や設置手法に一定の技術が必要です。さらに、捕獲後の処理は他の罠に比べ経験が必要です。



くくりわな



捕獲されたイノシシ

※【改訂版】野生鳥獣被害防止マニュアル イノシシ、シカ、サル(実践編)、林野庁HPより引用、現地写真より

【知って防ごう！野生鳥獣被害】⑥

柵の種類

◆ 電気柵

- ・電気ショックの痛みを野生動物に経験させ、柵に近寄り難くさせます。
- ・柵線を確認させるために動物の目線に合わせて設置することも重要です。



水田に設置された電気柵



電気柵設置作業

◆ 金網柵(ロール状)

- ・金属製のためナイロン製等の網よりも強度に優れます。また、ロール状であるため運搬性にも優れます。
- ・編み目を広げられていないか定期点検が必要で、地面を掘り起こされてくぐり抜けられないよう多めに杭を打つ等の地際補強対策が重要です。



水田に設置された金網柵



◆ ワイヤーメッシュ柵(パネル状)

- ・丈夫な鋼線等を縦横に溶接して作られ、パネルごとに小分けできるので運搬性に優れます。設置時は、パネルの表裏に注意が必要です。
- ・金網柵と同様に地際補強が重要です。また、上部30cmを外側に20~30度折り曲げると、飛び越しをあきらめさせる効果(忍び返し効果)があります。



水田に設置されたワイヤーメッシュ柵



掘り返し防止

※現地写真より

鳥獣被害対策技術

◆ サルテレメトリー調査用の首輪

- ・加害群のサルなどにGPS発信機付の首輪を取り付け、サル個体群の位置情報を農業者や捕獲者等に共有し、サルの追払いや捕獲などに役立て、個体群を管理します。



首輪を取り付けたサルの様子



◆ 獣害対策用グレーチング

- ・グレーチングとは、人や車は通行可能で、シカ・イノシシなどの偶蹄類(蹄を有する動物)が渡りにくく、忌避効果の高い害獣侵入防止装置です。
- ・蹄の間にグレーチングのバーが挟まり歩行が困難になるため、グレーチングを嫌がります。
- ・金網柵等の侵入防止柵や門扉が設置できない道路上の対策として有効です。(※設置にあたっては道路管理者との協議が必要です。)



※現地写真より



道路にグレーチングを設置した様子

【知って防ごう！野生鳥獣被害】⑦

なぜ、今ジビエなの？

「ジビエ(Gibier)」はフランス語で“狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉”を意味する言葉です。日本でも古くから狩猟肉を食べる文化があります。

被害防止のために捕獲を進めるだけでなく、捕獲鳥獣を地域資源(ジビエ等)として利用し、農山村の所得に変えるような有害鳥獣を「マイナスの存在」から「プラスの存在」に変える取組を全国に広げていくことが重要です。

マイナスの存在

野生鳥獣による農作物被害の増大

営農意欲の減退

耕作放棄地の拡大

農山村地域の衰退

有害鳥獣の捕獲

捕獲鳥獣の処理が負担に

ジビエ振興

これまで廃棄していた捕獲鳥獣のジビエ利用拡大を推進

プラスの存在

積極的な捕獲の推進

様々な分野ジビエ利用

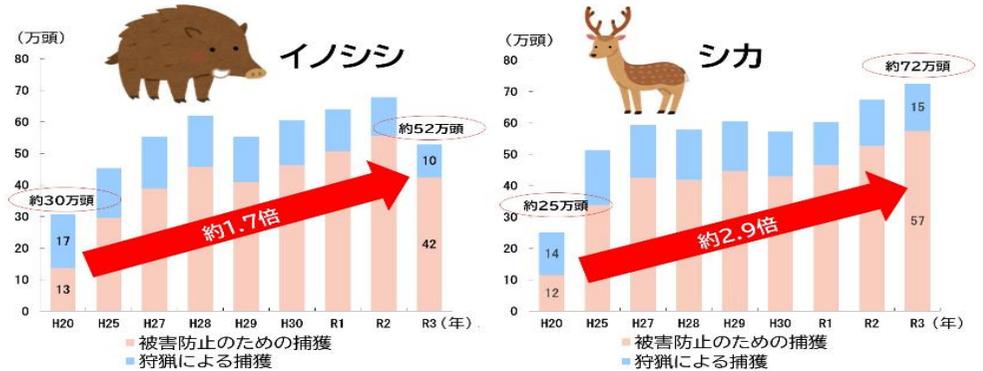
- ・外食・小売
- ・学校給食
- ・ペットフードなど

農作物被害の低減が期待

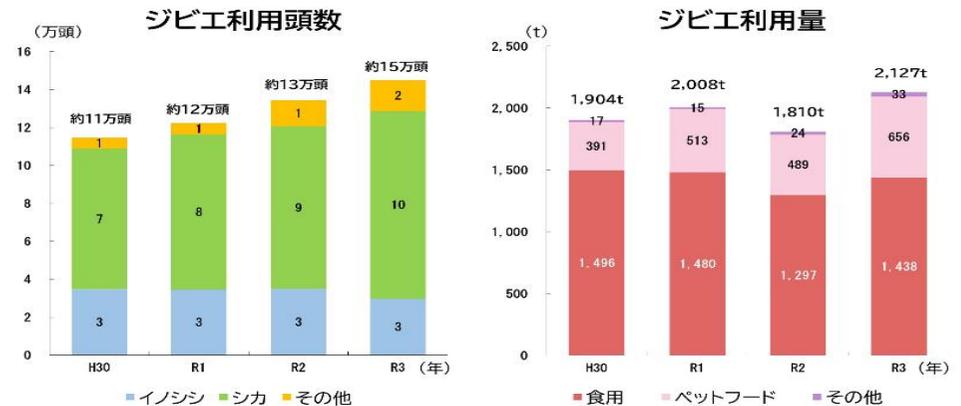
農山村地域の所得向上が期待

捕獲頭数とジビエ利用量

- 近年、被害防止等を目的とする捕獲が中心に行われ、イノシシ及びシカの捕獲頭数が大幅に増加し、全国で合わせて年120万頭超を捕獲しました。
- 捕獲鳥獣の処理は、埋設や焼却が主流で、処理労力が負担になっています。



- 食肉利用は捕獲頭数の1割程度。
- 近年、野生鳥獣のジビエ利用は増加傾向。
- 食肉以外のペットフード利用や、骨、皮、角等の多用途利用も推進。



【知って防ごう！野生鳥獣被害】⑧

ジビエの栄養価

イノシシ肉と豚肉の栄養成分の比較(100g当たり)

■カロリー



イノシシ肉

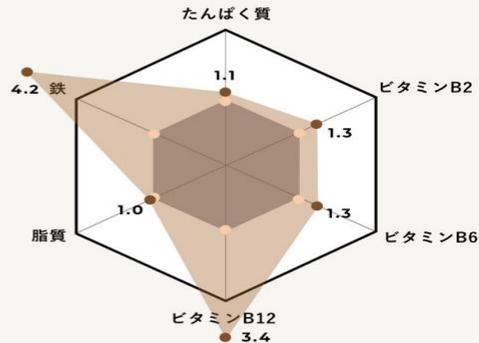
244kcal※1



豚肉

237kcal※2

■イノシシ肉/豚肉の比較(豚肉を1とした場合)



※1 肉、脂身つき、生

※2 大型精肉(肩ロース)、脂身つき、生

シカ肉と牛肉の栄養成分の比較(100g当たり)

■カロリー



シカ肉

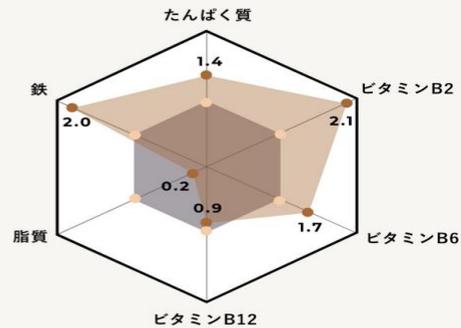
119kcal※3



牛肉

294kcal※4

■シカ肉/牛肉の比較(牛肉を1とした場合)



※3 ニホンジカ、赤肉、生

※4 和牛肉(サーロイン)、赤肉、生

出典:文部科学省「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」

引用元:<https://gibierto.jp/content/happy>

ジビエの安全と信頼の確保のために

「野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針(ガイドライン)」(平成26年11月策定、令和2年5月改正 厚生労働省)には、ジビエを不特定または多数の者に供与する狩猟者や食肉処理業者、飲食店営業者等が共通して守るべき衛生措置が記載されています。

また、食用として問題がないと判断できない疑わしいものは廃棄することを前提に、具体的な処理方法についても盛り込まれています。

ジビエの利用拡大に向けた各段階の取組ポイント



国産ジビエ認証制度

ジビエの処理加工施設の自主的な衛生管理等を推進するとともに、より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図るため、平成30年5月に「国産ジビエ認証制度」を制定。

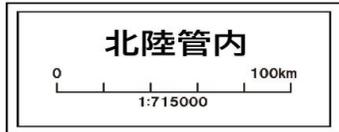
認証を受けた処理加工施設で生産されたジビエ製品等には認証マークが表示されています！



国産ジビエ
認証

【知って防ごう！野生鳥獣被害】⑨

北陸管内の獣肉処理施設



- 石川県
- ① 奥能登ジビエしおかぜファーム(珠洲市)
 - ② 里山食品株式会社(穴水町)
 - ③ 山本ジビエ処理施設(七尾市)
 - ④ 合同会社のとしし団(羽咋市獣肉処理施設)(羽咋市)
 - ⑤ ジビエ工房三谷(金沢市)
 - ⑥ Hunter Base JAPAN(白山市)
 - ⑦ (一社)白山ふもと会 尾口山菜加工施設(白山市)
 - ⑧ ジビエアトリエ加賀の國(小松市)

- 新潟県
- ⑨ 柿崎ブーシェリー(上越市)
 - ⑩ 雪国Base(十日町市)
 - ⑪ 惣右工門(糸魚川市)
 - ⑫ じび栄(南魚沼市)
 - ⑬ ホタル喰楽ぶ(長岡市)
 - ⑭ 長吉(新潟市)
 - ⑮ 河合淡水魚(新潟市)
 - ⑯ KOKAJIYA(新潟市)
 - ⑰ ファームコバヤシ(新潟市)
 - ⑱ 善(三条市)

- 富山県
- ⑲ グランマルシェタケダ(株)(富山市)
 - ⑳ 大長谷ハンターズジビエ(富山市)
 - ㉑ (株)にくまる(高岡市)
 - ㉒ 一般社団法人 狩猟屋(黒部市)
 - ㉓ NPO法人 新川地区獣肉加工施設(阿窪の森工房)(黒部市)
 - ㉔ (株)K・MEAT(ケーミート)(上市町)
 - ㉕ いのや(南砺市)
 - ㉖ ジビエスタ立山(株)(立山町)
 - ㉗ (株)Dotok(南砺市)

- 福井県
- ㉘ ふくいウエストサイドジビエの会(福井市)
 - ㉙ 美浜町新庄獣肉加工施設(BON1029)(美浜町)
 - ㉚ 嶺南地域有害鳥獣処理加工施設(若狭ジビエ工房)(若狭町)
 - ㉛ 若狭高浜いのしかい(高浜町)

注)県から報告のあったジビエの処理加工施設を取りまとめたものであり、管内の全ての施設を網羅したものではありません。

見つける。新たな魅力

2022.11.1 tue.
—2023.2.28 tue.

全国ジビエフェア

はじめよう、ジビ活

ジビエを未経験の方も、大好きな方も。
ジビエが食べられる・買えるお店を探して
ジビ活を楽しもう！



主催 株式会社ぐるなび
実行委員会 株式会社ぐるなび・株式会社エディオン・株式会社エディオン・株式会社エディオン・株式会社エディオン

全国ジビエフェア



【知って防ごう！野生鳥獣被害】⑩

農村振興局長賞（被害防止部門（個人））

町内のサルの加害群全てにGPS首輪を装着・管理によりサルの分布や誘導域の「見える化」と、住民への情報提供により効率的な追い払いにつながっているほか、研修会等の開催により、地域住民や自治体職員の鳥獣被害対策に対する意識変化に貢献。

波多野 健治 ひがしかんぼらくん あがまち
新潟県東蒲原郡阿賀町

主な取組

- 臨時職員や実施隊の一員としてサルパトロールやテレメトリー調査、ワークショップの開催により、地域での合意形成を進め、電気柵の整備と管理に取り組んでいたが、二ホンザルをはじめとした有害鳥獣の被害防止に寄与したいとの思いから阿賀町へ定住を決定し、平成30年に「新潟鳥獣警備」を立ち上げ、地域と一体となった活動を行っている。
- GPS首輪を町内のサル加害群（29群）全てに取付け、群れの管理を行っており、無線機を使ったテレメトリーでは加害群の位置の「見える化」を実現し、追い払い活動のため住民に1日6回の情報提供を行っている。また、GPSシステムにより群れの軌跡、分布を把握・活用することで、予測捕獲や加害群の選択捕獲が可能となった。
- 地域住民を対象とした学習会では、サルの生態から個体数管理について誘引要素やその除去、電気柵の管理などについて住民目線での講話を通じて、「他人任せ」ではなく「自ら率先して行動する」といった地域住民の意識変化が見られた。また、自治体職員を対象とした研修会では、捕獲のみではなく、捕獲と群管理、環境整備という点から加害群管理の必要を唱え、「捕獲ありき」から「行政と地域・集落が協力して実現可能なものから実践していく」といった意識変化がなされた。

【サルによる被害額（阿賀町） 400万円（平成26年度）→約370万円（令和2年度）】

【サルの捕獲数（阿賀町） 36頭（平成26年度）→215頭（令和2年度）】

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

町と集落組織をつなぐ、中間支援組織の協力による三者一体となった体制で、侵入防止柵の適切な管理や放任果樹の伐採等の被害防止活動を実施。また、サル対策として電気柵の整備、効果的な追い払い活動及びサル出没予測システムの導入等により被害が減少。

高浜町有害鳥獣害対策協議会

（会長：野瀬 豊） おおいくん たかはまちよ
福井県大飯郡高浜町

主な取組

- 効果的に獣害対策を展開していくため、高浜町と集落組織をつなぐ役割を担う中間支援組織（M&N）の協力の下、町が創設した鳥獣被害対策事業が集落組織で生かされるよう、中間支援組織が事業実施に関するアドバイスをを行う等、三者一体となった体制で被害防止活動を実施している。
- 中間支援組織は集落と共に継続的に活動することで、集落組織からの信頼も厚く、集落リーダーの育成にも繋がっており、一部集落では、集落リーダーが中心となって住民主体の獣害対策が展開されるようになってきている。また、小学生を対象に出前授業を行うなど、大人から子供まで正しい鳥獣被害対策を身につけるための啓発活動を行っている。
- サル対策として、サル用電気柵（120箇所）の導入及び放任果樹の伐採（339本）や低樹高化処理の他、サル出没予測システムにより、初動が遅れることなく効果的な追い払いが行われた結果、令和2年度はサルによる農作物被害は発生しなかった。また、イノシシ、シカによる農作物被害についても集落点検の結果、集落組織において侵入防止柵が適切に管理されるようになり、イノシシ被害は、取組前（平成27年度）の4.4%まで減少した。

【イノシシによる被害金額（高浜町全体）】

約1,000万円（平成27年度）→約40万円（令和2年度）